

北海道・山のトイレマップの配布と今後について

山のトイレを考える会

1. 2019年から7年間配布

大雪山国立公園での携帯トイレ普及宣言が2018年7月に発表された。当会では、少しでも宣言に寄与できるよう、当会で作成した山のトイレマップを多くの登山者に配布することにした。トイレ、携帯トイレブース、携帯トイレ回収ボックスの位置そして携帯トイレ販売店を掲載している。

掲載しているのは大雪山国立公園の表大雪、東大雪、十勝連峰、知床（羅臼岳）、利尻山の5エリアで2019年から毎年約10,000部を登山者に配布している。



旭岳ビジターセンターでの配備
(特注の亚克力ケースを使用)

2. 主な配布（配備）先

毎年、配布部数が一番多いのは、旭岳ロープウェイ姿見駅で2,000部以上配布している。主な配布先は次のとおり。

(宿泊施設)

白銀荘、凌雲閣、東大雪荘、カミホロ荘、愛山溪倶楽部、蝦夷富士小屋、木下小屋

(ビジターセンター等)

旭岳ビジターセンター、層雲峡ビジターセンター、高原温泉ひぐま情報センター、

十勝岳望岳台防災セルター、ひがし大雪自然館、知床自然センター、

知床羅臼ビジターセンター、知床世界自然センター、利尻町立郷土博物館

(森林管理事務署関連)

黒岳森林パトロール事務所、森林パトロール高原事務所、森林パトロール銀泉台事務所

(その他・少数部数)

環境省の自然保護官事務所、森林管理署、北海道、市町村、自然保護団体、山岳会など

3. 来年度に向けた検討

今まで7年間、膨大な量の紙のマップを配布してきた。印刷費用約6万円、小包等の通信費を5万円ほど毎年支出している。また送付する労力もかかる。2026年度は次の理由で、紙のマップからQRコードによるURL周知へ変更を検討している。

- (1) QRコード周知により、ホームページのマップの変更だけで済ますことができる。印刷費、通信費及び労力の軽減が図れる。
- (2) 今までインバウンド用（英語版）の紙のマップは配布していなかった。QRコードにより、簡単に周知できる。
- (3) 環境省で制作した動画「携帯トイレの使用方法」も周知できる。

(以 上)